

## 「弟子となるために」

ルカ 14 : 25～35

### 1. はじめに

#### (1) 文脈の確認

- ①イエスは、エルサレムからペレアに移動する。
- ②次に、ペレアからエルサレム(ベタニヤ)に向かう。
- ③その途上で、「後の者が先になる」というメッセージがなされた。
- ④次に、パリサイ人の家での食卓の場面が出て来た。
  - \*「後の者が先になる」というテーマが継続して取り上げられた。
- ⑤今回は、「弟子道」に関する教えである。
  - \*十字架の時が迫っている。
  - \*弟子としての心構えをしっかりと教える必要がある。
  - \*3つの教えが出て来るが、これらの教えは、救いに関するものではない。

#### (2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 115 大ぜいの群衆への警告のことば

### 2. アウトライン

- (1) 優先順位を明確にする(25～27節)。
- (2) 十字架を負う決心をする(28～30節)。
- (3) 犠牲を計算する(31～35節)。

### 3. 結論：

- (1) 塩とは何か。
- (2) イエスとは誰か。
- (3) 救われるだけではだめなのか。

イエスが教える弟子道について学ぶ。

#### I. 優先順位を明確にする(25～26節)。

##### 1. 25節

Luk 14:25 さて、大ぜいの群衆が、イエスといっしょに歩いていたが、イエスは彼らのほうに向いて言われた。

- (1) ほとんどのリーダーは、フォロワーの数が増えることを喜ぶ。

(例話) ツイッターのフォロワー数 (2014年11月11日)

- ①有吉弘之 359万人
- ②きゃりーぱみゅぱみゅ 250万人
- ③ROLA 227万人
- ④孫正義 223万人

(2) イエスは、単にフォロワーが多いだけでは喜ばない。

- ①イエスは、群衆の方を振り向いた。これは、劇的な動作である。
- ②興味本位で従ってくる人たちに警告を発する。

(3) きょうの箇所は、イエスによるふるい分けの作業である。

- ①弟子の条件を提示することによって、本物の弟子を選別する。

## 2. 26節

**Luk 14:26 「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、そのうえ自分のいのちまでも憎まない者は、わたしの弟子になることができません。」**

(1) 「愛する」と「憎む」について

- ①通常は、感情的要素が深く関わっている。
- ②聖書の中では、「愛する」と「憎む」は、別の意味でも使用されている。
- ③「愛する」とは、選ぶことである。
- ④「憎む」とは、選ばないことである。

(例話) どの洋服を着るか。感情的要素は、入り込んでいない。

(2) 別の例は、神がエサウではなくヤコブを選んだことである。

「このことだけでなく、私たちの父イサクひとりによってみごもったリベカのこともあります。その子どもたちは、まだ生まれてもおらず、善も悪も行わないうちに、神の選びの計画の確かさが、行いにはよらず、召してくださる方によるようにと、『兄は弟に仕える』と彼女に告げられたのです。『わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ』と書いてあるとおりです」(ロマ9:10~13)

(3) イエスは、何を優先するかという意味で、「愛する」と「憎む」を使っている。

- ①両親を憎めという教えがイエスのものでないことは明らかである。
- ②十戒の第5戒は、両親を敬うことを教えている。

(例話) 現代の反宣教団体の論法

\*彼らは、イエスは両親を憎むように教えていると中傷する。

(4) イエスは、優先順位のことを言っている。

- ①イエスの弟子は、イエスに従うことへの妨害が出てきたら、それを拒否する。
- ②どんなに大切なものであっても、イエスよりも優先させてはならない。
- ③個人的な快適さよりも、イエスの栄光が現れることを求める。
- ④弟子は、二人の主人に仕えることができない。

## II. 十字架を負う決心をする (27 節)。

### 1. 27 節

**Luk 14:27 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。**

(1) ローマ時代の十字架刑

- ①罪人は、十字架の横木を負って、刑場まで歩かされた。
- ②彼らは、ローマの権威によって強制的にそうさせられた。

(2) キリストの弟子は、自発的に十字架を負う。

- ①クリスチャンの中には、個人的な快適さを求めて、そうしない人たちがいる。
- ②弟子になろうと思う人は、自発的にそうする。

(3) 十字架を負うという意味

- ①キリストが歩まれたように歩むこと。
- ②自己否定、辱め、迫害、誘惑などなど。

## III. 犠牲を計算する (28～35 節)。

### 1. 28～30 節

**Luk 14:28 塔を築こうとするとき、まずすわって、完成に十分な金があるかどうか、その費用を計算しない者が、あなたがたのうちにひとりでもあるでしょうか。**

**Luk 14:29 基礎を築いただけで完成できなかつたら、見ていた人はみな彼をあざ笑って、**

**Luk 14:30 『この人は、建て始めはしたものの、完成できなかつた』と言うでしょう。**

(1) これは、塔の建設のたとえ話である。

- ①紀元27年に、手抜き工事をした円形劇場が崩れ、約5万人の犠牲者が出た。
- ②手抜き工事の建物や、未完成の建物は、当時よく知られていた。

(2) 十分な資金がないままで塔を築こうとした人の物語

- ①塔については、シロアムの塔が倒れた話、畑に建てる見張りの塔、などがある。
- ②このたとえ話の結論は、施主が恥を見ることである。

\*中東文化では、名誉が重視される。

2. 31～33 節

Luk 14:31 また、どんな王でも、ほかの王と戦いを交えようとするときは、二万人を引き連れて向かって来る敵を、一万人で迎え撃つことができるかどうかを、まずすわって、考えずにいられましょうか。

Luk 14:32 もし見込みがなければ、敵がまだ遠くに離れている間に、使者を送って講和を求めるでしょう。

Luk 14:33 そういうわけで、あなたがたはだれでも、自分の財産全部を捨てないでは、わたしの弟子になることはできません。

(1) ヘロデ・アンティパスの敗戦

- ①ヘロデヤとの結婚のために、前妻と離婚した。
- ②前妻は、アラビアのアレタ王の娘であった(2コリ 11:32にその名が登場)。
- ③アレタ王は、ヘロデの姦淫が原因で娘が離縁されることに立腹した。
- ④アラビア戦争が勃発し、ヘロデは大敗した。
- ⑤これが、ヘロデ・アンティパスが没落するきっかけとなった。
- ⑥イエスのたとえ話を聞く聴衆には、その記憶が鮮明に残っていた。

(2) 戦争を始める前に、しっかりと考える必要がある。

- ①勝つ見込みがあるかどうかを吟味することは、死活問題である。
- ②弟子になるためには、その犠牲をしっかりと計算する必要がある。

(3) 2つのたとえ話は、弟子としての犠牲を数えることの重要性を教えている。

- ①中途半端な態度では、弟子になることはできない。

4. 34～35 節

Luk 14:34 ですから、塩は良いものですが、もしその塩が塩けをなくしたら、何によってそれに味をつけるのでしょうか。

Luk 14:35 土地にも肥やしにも役立たず、外に投げ捨てられてしまいます。聞く耳のある人は聞きなさい。」

(1) 塩気を失くした塩は、なんの役にも立たない。

- ①現代の塩は精製塩なので、塩気を失くすことはない。

- ②この当時の塩は、不純物が混じっている。
- ③塩分が溶け出して、不純物だけ残ることがある。
- ④その不純物は、耕作地の土壌にも、肥料にもならない。
- ⑤外に投げられる。

## 結論

### 1. 塩とは何か。

(1) 塩とは、弟子のことである。

①弟子が持つ性質は、塩の性質と同じである。

(2) 塩の契約

「イスラエルの神、【主】が、イスラエルの王国をとしえにダビデに与えられたこと、すなわち、塩の契約をもって、彼とその子らとに与えられたことは、あなたがたが知らないはずはあるまい」(2歴13:5)

①塩は、生きるための必需品である。中東の暑い気候では、なおさらそう言える。

②塩は、腐敗防止効果を持っている。

③塩は、調味料である。

④「塩の契約」という言葉は、永遠に変わらない契約を指す。

⑤同盟契約を結んだ者同士は、契約の食事をした。

⑥その際、塩味のきいた料理が用意された。

(3) 犠牲を計算し、全面的に献身する弟子は、キリストにとっては「塩」である。

①塩気を失くした弟子は、人々から物笑いにされる。

### 2. イエスとは誰か。

(1) シェマと呼ばれる聖句

「聞きなさい。イスラエル。【主】は私たちの神。【主】はただひとりである。心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい」(申6:4~5)

①これは、ユダヤ教の基本的な信仰告白である。

②異教徒たちは、神々を礼拝していても、安心できなかった。

\*気まぐれの神々で、次の行動は予測不可能である。

③イスラエルの民が信じる神は、契約の神である。

\*それゆえ安心できる。

(2) イエスが弟子に要求されるのは、シェマの内容と同じである。

①イエスは、神である。

3. 救われるだけではだめなのか。

(1) 救いの道と弟子道を区別する必要がある。

(2) 救いは、恵みにより、信仰による。

①福音の三要素を受け入れ、イエスの信頼を置く。

②信仰とは「信頼」のことであって、救われるための条件ではない。

③一度救われたなら、救いを失うことはない。

\*塩気を失くした塩を外に投げるのは、人である(動詞が複数形)。

\*「men throw it away」(RSV)

(3) 弟子道は、自発的なものである。

①イエスは、すべての人を招かれる。

②イエスは、信じた人を「ふるい」にかけられる。

③イエスは、すべての人が弟子になることを願っておられる。

④しかし、すべての人が弟子としての道を選ぶわけではない。

⑤神の業は、弟子たちによって進められてきたし、これからもそうである。

(4) モーセの例

「信仰によって、モーセは成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました」

(ヘブ11:24~25)

(5) パウロの例

「もし私たちが気が狂っているとすれば、それはただ神のためであり、もし正気であるとするならば、それはただあなたがたのためです。というのは、キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです。私たちはこう考えました。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのです。また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです」(2コリ5:13)

「しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています」(ピリ3:7~8)